

# 初めての別れ

Level 1



文: シー (Sally Shi)

| Book made by Canva

JAPN 1231 Tadoku Spring 2021

「ママ、可愛いハムスターね！」

ある子供がペットショップーウィンドを  
見ながら、言いました。

「そうだね。」

「そのハムスターを買ってもいい？」

「いいよ。でも、誰が世話をする？」

「私が！ママが私を世話してくれるように  
世話するよ！」



男の子は毎日ハムスターをよく世話していました。

毎日ハムスターに餌をやつて、ハムスターと楽しいことや悲しいことを話していました。

ハムスターがソファアのギャップに落ちた時に、男の子が助け出しました。ハムスターは男の子の一番の友達になりました。



でも、冬ふゆに寒さむくなつたし、ハムスターは病びょう気きになつて、

男おとこの子はとてこも心しん配ぱいしました。

「どどうすすれば私わたしのハムスターが元げん気きになる？」

男おとこの子は泣なきながら言いいました。





ある日、ハムスターが死しにまひした。

「ハムスターを死しなせたくない！」

男おとこの子は大声おおこえで泣なきました。

でも、ハムスターは動うごきません。

「大丈夫だいじょうぶだよ。ハムスターはハムスターの天てん国こくに行い

つてたくさんのハムスターと一いっ緒しょに遊あそぶこと

ができるよ。」

お母かあさんは男おとこの子こに言いいました。



男の子はお母さんと一緒に木の<sup>おとこ</sup>下<sup>こ</sup>で<sup>かあ</sup> <sup>いっしょ</sup> <sup>き</sup> <sup>した</sup>

ハムスターを埋<sup>う</sup>めました。

「来年<sup>らいねん</sup>の春<sup>はる</sup>、ここ<sup>こゝ</sup>で、綺麗<sup>きれい</sup>な花<sup>はな</sup>が咲<sup>さ</sup>く！」

お母<sup>かあ</sup>さんは言<sup>い</sup>いました。

「本当<sup>ほんとう</sup>? ハムスターの花<sup>はな</sup>なの？」

「そうよ。」



死しは怖こわいですが、

お祈いのりは生いきる力ちからを与あたえます。

愛あいは死しに花はなを咲さかせます。

